

よぬだ ところどころ



第二号

ヨナダーが下米田・牧野の色々な見どころを紹介するよ

日本相撲協会が運営する大相撲が不祥事等で大揺れしている昨今ですが、「角力・相撲」は古くから日本国民に愛されている「スポーツ・神事」です。

その発祥は古代に遡り、戦国の覇者信長も相撲を愛し、強いものは家来に採用したようです。江戸期を通じ各地・村々で相撲がおこなわれ、現代に引き継がれていますが、

大正から昭和にかけて国民的スポーツとして最盛期を迎えています。この美濃加茂地域でも各町村に土俵がつくられ力自慢が行われたことが記録されています。

相撲が日本の国技といわれるのもこのような背景があります。山本にある諏訪神社の境内には、



立派な土俵があり諏訪神社の祭礼時に使われています。 下写真

注 諏訪神社と相撲の関係は、神社の祭神にあります。

古事記によれば大国主の子の**建御名方神**は、「力くらべ」によつて国譲りを決することになり。結果、負けた建御名方神は諏訪へのがれ、諏訪の神となります。つまり、この「力くらべ」を相撲の起源としています。

古代には、このように相撲の勝敗によつて神意を知ろうとしたとされます。従つて、相撲の起源は神事であり、祀りごとや占いと深い関係があったのではないかと思われます。

